

「わたくし、生まれも育ちも」

正月映画といえば寅さん、「男はつらいよ」であった。劇場で観たことはない。

暗がりでも1時間も2時間も過ごすのが苦手で、私の映画遍歴は本当に貧しい。大学時代、銀座並木座で観た黒沢映画全作品がピークであろうか。

「男はつらいよ」は後年、テレビで全て観た。家人が筋金入りのファンで付き合わされ、笑い転げ、涙した。国民的娯楽映画であった。

「俺がいたんじゃお嫁にや行けぬ わかあっちゃいるんだ妹よ」はあまりに有名な主題歌だが、シリーズ第2作での歌い出しは、

「どぶに落ちて根のある奴は いつかは蓮の花と咲く」になっている。

第1作で妹・さくらがめでたく結婚したため、新しい詞を用意したのだろう。第4作では、

「どおせおいらは底抜けバケツ わかあっちゃいるんだ妹よ」となり、以後第5作から48作まではおなじみの、

「どおせおいらはヤクザな兄貴 わかっちゃいるんだ妹よ」が定番になった。

作詞は星野哲郎である（作曲・山本直純）。山田監督からはストーリーの進展に伴い新たな歌詞を各章節ごと、いくつも求められたそうだ。ぼんやり聞いていた主題歌だが、読み比べてみて初めて知った。

「愛唱歌ものがたり」（読売新聞文化部・岩波書店刊）にこんなくだりがある。

「（星野哲郎の）取材中、その（歌詞）一覧表を見せると、自分でも忘れていた詞があるらしい。コピーを取らせてくれと所望された。『笑いで皆を元気づけられる』人に、作詞家も久々に会いたくなかったようである」。

作詞家も忘れるほど、その主題歌は幾度も手を入れさせられた。

渥美清は俳句を詠んだ。俳号は「風天」（フーテン）。寅次郎を愛し、かつ寅次郎の呪縛に抗った孤独な人生がかいま見える。

私が好きな一句、「赤とんぼじっとしたまま明日どうする」。

彼の年末年始はこんなようであったらしい。

「テレビ消しひとりだった大みそか」

「いみもなくふきげんな顔してみる三が日」

年が明けた。さて、どんな時代が待っているのだろう。前向きに生きたい。

「何というかな ああ生まれてきて良かった、そう思うことが何べんかあるだろう。

そのために生きてんじゃねえか。そのうちお前にも そういう時が来るよ、な？ まあ、がんばれ。」

第39作「男はつらいよ 寅次郎物語」に出てくるセリフである。

「新聞に載らない内緒話」 <http://www.nikkansports.com/general/column/naisyo/news/>

※上記のHP（ホームページ）からの原稿の転載はご遠慮ください。

(1) (提案を)断る

The company offered me a promotion to sales manager, but I turned it () in order to spend more time with my family.

会社は僕に営業部長への昇進を提案してきましたが、家族と一緒に過ごす時間をより多く確保するために断りました。

- a. below
- b. down
- c. under
- d. back

(2) (レポートなどを)提出する

"What's your hurry?" / "Well, I have to finish this term paper on climate change and turn it () to my teacher by noon."

「何でそんなに急いでいるの?」/「実はね、お昼までに地球温暖化に関する学期末レポートを書き上げて、先生に提出しないとイケないんだ」

- a. in
- b. under
- c. through
- d. on

(3) 離職する

Rumor has it that the working conditions at the IT company are so bad that employees turn () at a high rate.

あのIT企業の職場環境は相当に悪いらしくて、従業員の離職率が高いそうだよ。

- a. down
- b. against
- c. from
- d. over